

【事業名】

「こどものまち」を真ん中にして地域の子どもたちとともに、居場所とつながりを考える連続企画

【団体名】 NPO法人街カフェ大倉山ミエル

【課題】

- ・流入人口が多く、つながりの少ない世帯が多い。つながりが少ないので、地域活動に関心がなく、さらに孤立している。つながるきっかけがない住民に子どもの活動から地域に入る機会を提供する。
- ・H30年度は「居場所のいいことを考える」H31年度は子どもと街をつなげることで、その周辺にいる大人、子どもの環境に関心を寄せる大人に地域活動に関わりを持ってもらうこと考える企画を、「こどものまち」を中心にして開催した。
- ・R2年度は子どもが主体となって、自分で考える自分で作る「こどものまち」を中心の企画として、親子で地域につながるきっかけを広く提供する。
- ・「こどもジャーナリスト講座」は東急こども応援プログラムの「子どもと考える子どもの居場所」の企画でもあり、子どもが、ミエルの様なコミュニティカフェの放課後時間を子どもが自主的に企画運営することを目指しています。
- ・こどものやりたい事から始まった第一弾『YouTube講座』では、プロの講師に企画から考えてもらって、開催しました。何の調整もなく、多彩な作品になったことに驚いています。
- ・「森のようちえん」はインストラクターの企画・運営で、親子に、身近な公園等で自然に触れ合い・遊んでもらうことで、地域を知り、親しむきっかけにもつなげるための企画でもあります。

【取組概要】

- ・コロナ下で、子どもが1度集まる「こどもの街」はできなくなったため、人数制限をして回数を増やしたり、zoomを使って対応することにしました。企画も「こども哲学」「こどもジャーナリスト講座」「森のようちえん」の子ども発案の企画を行いました。
- ・「こども哲学」では、こどもたちが、自分たちで問いを立て、自分の意見を考え、話し合いを深めてゆく対話の場。「部屋は片づけなきゃいけないの?」「なぜ夢を見るの?」等で対話を繰り返しています。生活クラブの月刊誌「生活と自治」の掲載「こども哲学倶楽部」にも掲載されています。子どもの自律性を大切に考えています。

団体・事業のサイト

検索 ⇒ 『大倉山ミエル・コミュニティカフェ・まちづくり』

URL ⇒ <https://cafemiel.jimdofree.com/>

子どもと考える 子どもの自由な居場所展

大倉山アートジャム 2020

開催予定：YouTube 講座（7日13時～臨時開催予定3,4時間）子ども達の映像作品展示、森のようちえん、こども緑日：的あて、金魚すくい、お絵描き、作品展示、段ボールトンネル、ミエル活動紹介、ガチャポン、ミサマガ作り、ティアラ作り、スライム遊び、みつばちの家等、何でもあり

2020.11月7,8日
@大倉山記念館 ギャラリー

主催：大倉山ミエル 7日（土）10:00～17:00、8日（日）10:00～15:00
HP：https://cafemiel.jp/ndofree/

※この催事は大倉山ミエルに関わる多くの人が力を合わせた「コミュニティカフェ」を基盤とした子どもたちと考える自由な居場所を作る「プログラム」の一環です。今年度の中間報告です。毎日、自由に楽しく遊んでいる様子を掲載してくださいます。色々な楽しみも掲載しています。大倉山ミエルに関わる人たちの自由な居場所があります。ぜひ遊びに来てください

● 森のようちえん：7日（土）10:30～11:30
● YouTube 講座：7日（土）13:00～17:00
● 座談会（神田さんとママ達）：8日（日）13:00～14:30 予定

主催：NPO法人街カフェ大倉山ミエル、連絡先：miel.okurayama@gmail.com 東倉子ども応援プログラム2020と港北区みんなのチカラ応援事業の協力を受けています。

「子どもと考えるこどもの自由な居場所」展 @大倉山記念館のポスター

大倉山ミエル 2021
Café Miel Okurayama

街カフェ 大倉山ミエル

ミエルは自由に、迂闊に、楽しくやりたい事をやれる場所

- **地域協働活動**
みつばち保存会、こどもて港北、鹿野の森、ちろちろスタイル、公園遊びの会、おたん、ハッピーマザーミュージック、餅屋川子、トワーク、日吉新聞、まちを耕す会、港北こぼろく市民ジャーナル、菊名みんなの広場、わなびいく、てくてく大倉、スルソーシャルワーカー、近隣の小中学校、町内会、商店会、フォーラムアソシエ、市、県の関連機関等と適宜つながって活動を行っています。
- **大人の部活動**
Edu Café、ミエルの部屋、ママのおしゃべり会（Line）、復興かんぱろう会、ミエル倶楽部、ミニフリマ、正樹な企画、みかん会、子ども食堂、フードパントリー、さごさんのスパイスカレー、認知症カフェ、シアターの時間（Line）等、遊んだり、食べたり、学んだり、ミエル企画部の自主的な企画・運営を含め、様々な活動が生まれています。

みつばち探検隊
週に2回、毎回、同じメンバーで、おさんぽに出かけていきます。のんびり、ゆったり、まったり、遊んだり、食べたり。そんなこども達の時間を一緒に考え、作っていく方を募集します。

森のようちえん
「イラストレーター」の専業主婦、近隣の公園などで、自然観察、自然の観察、観察し、楽しむ。

放課後ミエル
毎月、約2回、15:00～17:00に小学生を対象に自主的に遊べてもらえる居場所を設けています。子どもたちのやりたいから生まれた「子どもジャーナリスト」も開催しました。

子ども食堂
コロナ前は、月に1回開催、60食（大人500円、子ども100円、3回分）を皆さんにお手頃な価格で提供していましたが、現在は、20食のお弁当の無料配布とフードパントリーの配布を行っています。

菊名お節介ミエル
菊名みんなの広場での毎週金曜日に子育てのための時間です。「孫育（こっポッ）」の神田明子さんとおしゃべりも開催しています。

お出かけミエル
※定例的に週に2回（月、水）10:00～13:00開催しています。お弁当の配布も有ります。（横浜市介護保険のサービスBです。）

● **コミュニティ支援事業**
大倉山地域での活性化の色々な手法を活かし、コミュニティ活性化を応援しています。来年度からは神奈川県と基金21の協働事業でコミュニティカフェの立上り、活動団体同士をつなぐ活動のコーディネートを通して「旅」の解消のために活動してゆきます。又、幾々と共に実地での研修も行います。参加者募集中です。市民セクターよこはま、横浜フロンティアネットワーク、横浜コミュニティカフェネットワーク、区、市、県の関連機関等と適宜つながって活動しています。

おでかけミエル：毎週月・水 10:00～13:00、ちびっこミエル：火・木 10:00～12:00、効果後ミエル：月・水 15:00～17:00
定員：新型コロナウイルス対策上、定員6名、全て事前連絡をお願いたします。
申込方法：大倉山ミエルに電話又メール（☎：045-717-6778、Mail：miel@rf6.so-net.ne.jp）
東倉こども応援プログラムと港北区地域のチカラ応援事業の助成を受けています。

大倉山ミエルの活動紹介 2021

【事業の参加者・対象者の評価（声）】

- ① 家の鍵を忘れた子どもがミエルで、連絡がつくまで宿題をして過ごさせてもらった。映像制作しながら、みんなでダンスを踊ってはしゃいでいたり、沢山の友達を連れて行ったりしていた。そのような場所があることを、親子で感謝している。
- ② スクールソーシャルワーカーです。絵が好きで不登校の子どもの絵を置いてもらって、ミエルに来たお母さん等にコメントを書いてもらっています。こんな場所が有って良かったと言っていたり、なかなか、本人に来てもらいうまでにはなっていませんが、家でも学校でもない居場所になれば良いと考えています。
- ③ 先日、「子ども食堂」を再開した際、ちょっと遠い小学校の校長先生がわざわざお弁当を取りに来てもらえました。フードパントリーの野菜の配布など、社会福祉協議会ともつながり、ひとり親世帯への配布もできるようになりました。近隣の单身のお年寄りからの寄付も頂けるようになり、色々な人が繋がりはじめました。

【事業実施（主催）団体の評価】

- ① 「ちびっこミエル」について：お母さん達が予想以上に、企画、運営を行っています。次の展開も模索中です。
- ② 放課後ミエルについて：家でも学校でも大人から〇〇しちゃだめと言われるばなしの子ども達に、ほっとできる、自由な居場所を考えてもらいたいと思い、始めた。初期は色々やるのが有り、子どもジャーナリスト講座やガチャポン等、みんなで楽しく作ったり、展示会にも色々参加してもらいました。仲が良くなるにつれ、居場所になってきた反面、だんだん、YouTubeを見ている時間が多くなっていきます。改めて、子ども達の生活時間やニーズを知るため、それぞれの子ども達の生活についてのアンケートや、ヒアリングを計画しています。その中で、継続的に一緒にできることを模索しています。例えば、以前も開催したon-lineの「大人のためのこども相談室」でみんなにやりたい事を聞いたりしています。

●こどもの哲学

こどもたちが、自分たちで問いを立て、自分の意見を考え、話し合いを深めてゆく対話の場。生活クラブの月刊誌「生活と自治」の掲載「子ども哲学倶楽部」子どもの自律性を大切にしています。



生活クラブの月刊誌「生活と自治」の「子ども哲学倶楽部」の一部として掲載された。



●森のようちえん

身近な南公園、太尾公園、大倉山記念館公園を活用した、自然遊び・教育により、地域の自然系の資産の活用を促す活動を通して、地域との関わりによる豊かさを実感してもらうことが出来ている。



●こどもジャーナリスト講座

みんなのやりたい事から始まった『こどもジャーナリスト養成講座』。第一弾『YouTube講座』の子どもたちの作品を紹介します。何の調整もなく、こんなに多彩な作品になったことに驚いています。



【今後の展望と課題】

- ① おかげ様で、大倉山ミエルが目指している、「小規模多機能自治による地域包括支援への協働」を視野に、支援が届きづらい方々への、小さい居場所活動の役割（協働活動の重要性、社会的処方やコミュニティナース的視点）が実現されつつあります。来年度はその見える化も目指しています。
- ② R3年度はボランティア基金21で神奈川県との協働事業で「孤」の解消を目指して「活動団体をつなぐことでできる地域協働の活性化事業」を3年間の予定で始めます。港北区の「地域福祉計画」や地域ケアプラザともつながりながら可能な範囲で参画していきたいと考えています。
- ③ ミエルは「-1歳～100歳の居場所」を目指し、300mの徒歩圏を中心とした、インフォーマルな小さな居場所としての様々な活動を行い、同時にその重要性の見える化を行う。常に、近隣の活動と連携しながら、妊産婦家庭の支援の「ぼぼカフェ@菊名」やSNSの「ここみて港北」から、横浜市の生活支援補助事業サービスBの「お出かけミエル」までの全ての世代の居場所活動を展開しています。
- ④ ミエルでは今年度より、支援が必要なご家庭向けに、スクールソーシャルワーカー、近隣の小中学校、区社協、民生委員とも連携して関連機関に繋いだり、「子ども食堂」の代わりに、フードパントリーとお弁当の配食等を行っています。
- ⑤ 子ども（小学生以上対象）関連では、子どもの悩みを抱えた親が話し合う「みかん会」や、子どものサードプレイス的な居場所を子どもと考える「放課後ミエル」や海外の生活や仕事等の話を親子で聞いてもらう「ミエルの部屋」等を開催しています。
- ⑥ 現在、子どもが家でも学校でも「…しちゃだめ」と言われっぱなしの子ども達に、ほっとできる、自由な居場所を考えてもらいたいと始めた、自分の時間を取戻すためのコミュニティカフェを基地とした「子どもが考える子どもの自由な居場所」を考える活動を東急子ども応援プログラムの助成を受けて活動しています。昨年11月に次いで、今年6月にも大倉山記念館で活動を紹介する展覧会を開催します。
- ⑦ **地域のチカラ応援事業**では、R3年度はR2年度の活動で見えてきた、コロナ禍以後の対応として、屋外活動の充実によるコミュニティ活動の活性化に向けて、近隣の公園や街の、より有効な利活用のために、「ミツバチ探検隊」、「森のようちえん」、「ミエル畑部」等の活動を展開する予定です。
 - ・「ミツバチ探検隊」：幼児親子を対象に、まち保育的な活動、できるだけ子どものやりたい事を尊重しながら、まち歩きを行います。
 - ・「森のようちえん」：近隣の公園などで、自然観察や遊びを通して、身近な自然の豊かさや、子どもの成長にとっての重要性を感じてもらう。
 - ・「ミエル畑部」：熊野の森もろおかスタイルが活動している第1、3土曜日の @師岡梅の丘公園でのエシカル畑や 自然エネルギー 推進活動等に参加します。
- ⑧ 活動の主体は大倉山ミエルでの自主的活動が活成化している、ミエルベビー部 (lineグループ130人)、企画部 (23人) の自律的な企画・運営をサポートする方向で進める予定です。